

# 真言宗の仏様

日本には古来より、八百万の神がいらっしやると言われています。八百万とは、数え切れなくらい沢山という意味であり、大自然に存在するもの一つ一つに神様が宿っているということです。

神様というと、神社に代表される神道の話で、仏教には関係がないと思われるかもしれませんが、

実はそうではありません。真言宗の開祖である弘法大師空海上人は、同じようにこの大自然に八百万の神、少し表現を変えらるなら「八百万の仏」を感じておりました。この場合の仏と神の違いは言葉の上での違いに過ぎません。

真言宗では非常に沢山の仏様を拜みます。お寺によってお祀りされている本尊様が様々であることも真言宗の特徴ですが、それは僧侶が沢山の仏様の中から自分にご縁がある仏様を見つけてお祀りするからです。真言宗だから本尊様は〇〇であるとは言えないのです。

しかし一方で檀信徒の皆様にとっては、あまりに仏様の数が多いので分かり難いことも事実です。そこで、少しでも分かり易くするために仏様を大きく四つのグループに分類してみました。それぞれのグループの特徴を知ること、少しでも仏様を身近に感じて頂ければと思います。

## ☆如来グループ

### ○代表的な如来

・大日如来・阿弥陀如来・薬師如来など

如来とは、修行を終えて悟りを得た仏様のことを指します。如来の御姿の特徴は、宝飾品で身を飾らずに袈裟のみを着けています。非常にシンプルな御姿といえます。ただし、大日如来は例外で

す。四つのグループの数多の仏様はすべて、大日如来の別徳の現れです。大日如来はすべての徳（総徳）を円満に具えています。そして、求めに応じてその徳を様々な姿形で現します。例えば、病氣平癒の求めには薬師如来の姿、極楽浄土を望む者には阿弥陀如来の姿という具合です。つまり大日如来はすべての仏様の源なのです。まさに仏の中の仏でありますので、仏像、絵画等では他の如来と区別して、宝飾品で身を飾った王の如き姿で表されるのです。

大日如来  
(智積院)



阿弥陀如来  
(清凉寺)



☆菩薩グループ

○代表的な菩薩

- ・観世音菩薩かんぜおんぼさつ・地藏菩薩じぞうぼさつ・普賢菩薩ふげんぼさつ・文殊菩薩もんじゅぼさつなど

菩薩とは、如来を目指して修行している仏様です。修行の内容は大きく分けて「自利」・「利他」の二つがあります。自利とは、自らを高める修行であり、利他とは他人を助ける修行です。この二つをバランスよく行っている人は現世にあっても菩薩と呼ばれます。例えば、弘法大師空海上人も、自利、利他、共に秀でた僧侶ですので空海菩薩とも呼ばれます。

菩薩の御姿の特徴は、如来と比べて煌びやかです。多くの装飾品で身を飾っています。これは修行を終えて悟りを得た如来に対して、菩薩はまだ修行の途中であり、我々と同じ迷いの世界にいらっしやることの象徴でもあります。菩薩の片足は悟りの世界、もう片足は我々の迷いの世界にあるとも言えます。その我々の迷いの世界の象徴が装飾でもあるわけです。また、我々は煌びやかなものにはつい引き寄せられてしまいます。菩薩はそんな我々を正しい道へ導く為の方便(手段)として、わざわざ装飾品を身に着けていらっしやるとも言えます。

楊貴妃観音  
(泉涌寺)



## ☆明王グループ みょうおう

### ○代表的な明王

・不動明王 ふどうみょうおう ・愛染明王 あいぜんみょうおう ・降三世明王 こうさんぜみょうおう など

明王とは、その恐ろしい形相 ぎょうそう から本当に仏様なのだろうかと疑ってしまう方もいるかもしれせん。明らかに如来、菩薩とはその姿を異にしています。しかし、この恐ろしい形相 ふんぬそう (忿怒相) は深い慈悲の現れなのです。例えば子育てを例にとつて考えてみます。子供に対して、時には心を鬼にして怒らなければならぬケースがあります。しかし、怖い顔をして怒っていても、その心の中は子供の為を思う慈悲が満ち満ちているものです。それと全く一緒です。明王は我々のことを思って怒って下さっているのです。明王を拜む際には、その恐ろしい形相を目の前にすることで自分を戒めると同時に、その裏側、慈悲の心を感じ取って拜むことが重要なのです。

不動明王 (東寺)



## ☆天グループ

### ○代表的な天

・毘沙門天 びしゃもんてん ・弁才天 べんさいてん ・歓喜天 かんぎてん ・韋駄天 いだてん ・大黒天 だいこくてん ・梵天 ぼんてん など

天とは、元々はインドにおける仏教以外の神様や、日本古来の神様が仏教の教えに目覚め、そして仏教の守護神となった存在のことを指します。我々の悟りへの修行を助けてくれる存在であり、さらに言えば現世利益 げんせりやく を与えてくれる存在でもあります。ある意味において、我々にとって一番身

近に感じられる存在かもしれません。その御姿は様々であり、菩薩に近い姿から、顔や腕が複数ある異形な姿まであります。

現世利益を頂く為には天を拜むことが一番の近道であると昔から言われておりますが、仏法を外れたお願い事は慎まなければなりません。もし叶ったとしても、それは淡雪の如く儂いものであることでしょう。人の欲は尽きることがありませんが、出来るだけその欲を正しく使いたいものです。その正しさを教えるのが仏法、仏教なのです。

毘沙門天 (多聞天)

たもんでん

(東寺)



梵天 (東寺)

